

2020年1月9日  
NHK広報局

## 1月会長定例記者会見

Q. 3年間を振り返って

A. (上田会長) あけましておめでとうございます。ご承知のように、私は今月24日の任期満了をもってNHK会長を退任することになります。この3年間の任期を振り返り、ごあいさつさせていただきたいと思えます。

はじめに、NHKを支えてくださっている視聴者・国民の皆さまに、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私が会長に就任して最初の大きなミッションは、予算・事業計画の国会承認でした。国民を代表する国会で全会一致の承認を得ることがNHKに対する信頼の証だと考えていましたので、参議院本会議での採決で「反対0」という結果が表示され、思わず目頭が熱くなったことを今でも思い出します。予算・事業計画が全会一致で承認されたのは4年ぶりのことで、それ以来、3年連続で全会一致での承認が続いています。

3年前の就任会見で、私は放送と通信の融合時代にふさわしい「公共メディア」への進化を最大の経営課題として掲げました。「いつでも、どこでも」必要な情報やコンテンツを得られる環境を整え、視聴機会を拡大するためには、テレビ放送のインターネットへの常時同時配信と見逃し番組配信のサービスが不可欠だと考え、その実現に向けて放送法の改正にかけた3年間でした。それだけに、去年5月に法改正が実現したことは感慨無量でした。「公共メディア」へのパラダイムシフトに向けて「小さな一歩」かもしれませんが、この一歩が「大きな飛躍」につながってほしいと思えます。

おとしし12月には「新4K8K衛星放送」がスタートし、NHKは「BS4K」と「BS8K」という2つのチャンネルを開局しました。いわゆる「ピュア4K・8K」を極力追求し、視聴者の皆さまに新次元のテレビの世界をお楽しみいただいています。600万台を超える4Kの対応テレビが普及していますので、外付けチューナーの設置もぜひ期待したいところです。民放との二元体制の中で、放送の高度化に先導的な役割を果たし、新たなコンテンツ市場を切り開いていく。これもまた、NHKに求められる重要な役割なのだとということ

を感じました。

また、受信料の値下げは大きな経営判断でした。去年10月と今年10月に2段階で行い、合わせて4.5%の値下げとなります。すでに実施している「社会福祉施設への免除拡大」「奨学金受給対象などの学生への免除」「多数支払いにおける割引」「設置月の無料化」の4つの負担軽減策を合わせますと、通年で約420億円、昨年度の受信料収入見込みの6%相当の還元となります。NHKの毎年度の収入と支出の差である事業収支差金が400億円を超えたことはこれまで一度もありませんから、それを上回る還元額というのは、今できる最大限の規模だと言えらると思います。

世界最大の放送連合であるABU・アジア太平洋放送連合の会長を務めたことも思い出深いことでした。NHKはABUの創設メンバーで、去年11月には9年ぶりに東京で年次総会が開かれました。NHKはホストとして総会の運営にあたり、アジア太平洋地域の放送の発展に寄与するとともに、「国際公共メディア」としてのプレゼンスを高めることができたと考えています。

私は、会長1年目を「課題を抽出する年」、2年目は「抽出した課題を実行する年」、そして3年目を「実行した課題の取り組みを定着させる年」と位置づけ、「公共メディア実現」にまい進してまいりました。また、首都圏放送センターの記者、佐戸未和さんの過労死認定を踏まえた「働き方改革」、地域ブロック単位での経営を強化する「地域改革」、NHKと関連団体の一体経営を進める「グループ経営改革」の3つの内部改革を断行しました。役職員が一丸となって進めたこれらの取り組みは、着実に実を結びつつあります。放送センターの建て替えについても、第一弾となる情報棟の建設業者が決まり、着工にめどをつけることができました。

東京オリンピックの開催まで197日、パラリンピックの開催まで229日となりました。準備は順調に整いつつあります。NHKは、世界中の人々が注目するこの機会に最高水準の放送・サービスを提供することで「公共メディア」の姿をお示しし、これを東京大会のレガシーとして、視聴者・国民の皆さまに親しまれ、必要とされるメディアであり続けたいと思います。

常勤の経営委員や監査委員、また会長として通算6年半にわたってNHKの経営に携わり、この間、お世話になりました。本当にありがとうございました。

Q. 年末年始の主な番組について

A. (会長) 年末年始は多種多様で豊かなコンテンツをお届けいたしました。

令和最初の大みそかの「第70回NHK紅白歌合戦」は、「夢を歌おう」という4か年の共通テーマを掲げた最終年として、NHKホールから生放送しました。司会3人の息が合ったテンポのよい進行、紅白出場歌手43組の力のこもったパフォーマンス、スペシャルゲストとして出演したラグビー日本代表の皆さんや、11組の豪華審査員の皆さんも、それぞれの魅力で番組を盛り上げてくれました。そして特別出演された皆さんが視聴者の皆さまの心に響く曲を届け、大きな話題となりました。また嵐と米津玄師さんという夢のコラボでNHK2020ソング「カイト」を新しい国立競技場から初披露しました。若い世代も含め、幅広い年代の方々に見ていただけたと考えています。

元日に放送した「NHKスペシャル 10 Years After 未来への分岐点」は、“これからの10年が未来を決める”というテーマで、温暖化、食料・水不足、テクノロジーなど、地球規模の課題を世界の様々な分野の研究者からの提言とともに、最先端のコンピュータグラフィックスで未来の姿を映像化しました。2020年の年頭に、次の世代にたしかな未来をつないでいくため、私たち一人一人に何ができるのかを考える番組だったと思います。

ドラマでは、スペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介」を総合、BS4K、BS8Kで3波同時に放送し、中でも8Kでは、クオリティの高い映像と音響で100年前の中国を描き出すなど、8Kの持つ特性を生かした作品をお届けしました。

今月19日からスタートする大河ドラマ「麒麟がくる」は、大河ドラマとして初めて明智光秀を主役にすえるチャレンジな作品です。戦国の英傑たちをエネルギッシュな群像劇として描いた迫力ある仕上がりと聞いているので、これから一年間、どんなドラマを描き出してくれるか、大いに期待しています。

Q. 2020オリ・パラ手話CGによる紹介動画について

A. (会長) 今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、NHKが掲げている「視聴者への4つの約束」を実現していく年になります。このうちのひとつ、「共生社会の実現に貢献します」に関する取り組みについてご紹介します。

NHKでは、障害のある人もない人も、子どもから高齢者まで、誰もが共にオリンピック・パラリンピックの興奮や感動を共有できる「ユニバーサルサービス」のひとつとして、手話の動きを分かりやすくCGで表現した「手話CG」を開発して来ました。これを利用してオリンピック・パラリンピックの各競技の見どころを伝える動画を制作し、9日から「NHK東京2020オリンピック・パラリンピックサイト」に掲載します。今回、細かい表情など、手話としての表現力を高めるため、NHKパラリンピック放送リポーターの後藤佑季さんに制作に協力してもらい、最新の技術で後藤さんの顔や肌の質感をデータ化して取り込み手話CGの表現力のベースに使いました。この手話CGを通じて、各競技の見どころをイメージ豊かにお伝えするのはもちろん、こうしたサービスに触れることで、子どもたちをはじめ、多くの方に手話への興味を持ってもらい、共生社会推進の一助にしたいと考えています。（詳細は報道資料参照）

Q. 2月のBS8K番組について

A. (会長) 2月のBS8Kは、世界各国の絶景を旅した気分になれる「絶景紀行」をテーマにした番組をラインナップします。

まずは、「2時間でまわるシリーズ」の新作です。誰もが一度は行ってみたいとあこがれる「マチュピチュ」や「大英博物館」、世界遺産にも登録された「高野山」を、2時間ちょうどの8K番組にしました。見ているだけで、その場にいるかのような臨場感が味わえる番組です。

もう一つのおすすめは、4回シリーズで放送する「ヨーロッパ大横断リバークルーズ」です。オランダのアムステルダムから黒海まで、ライン川、メイン川、ドナウ川や運河を2つのクルーズ船を乗り継いで旅をします。距離3,500キロ、3週間をかけて9つの国を巡る壮大な川の旅です。世界遺産のケルン大聖堂やウイーンの美しい街並み、川の旅ならではの絶景をたっぷり堪能できます。そして、かつてヨーロッパで栄華を誇ったハプスブルク帝国の足跡や、東西の文化の交わりも知ることができます。クルーズ船からの景色に加えて、船内のようす、ワインや塩の輸送で豊かになった街の紹介なども織り交ぜることで、これまでにない多彩な視点でヨーロッパを旅しているような臨場感を堪能できる番組です。

(詳細は報道資料参照)

Q. 2019年度第4期末の営業業績について

A. (会長) 契約総数の増加は36万8,000件で、2019年度の年間計画43万件に対して85.6%、衛星契約の増加は44万5,000件で、年間計画58万件に対して76.7%の進捗となりました。

第4期の業績は、契約総数増加、衛星契約増加ともに、好調だった前年度を下回る見通しですが、引き続き、年間計画達成に向けて業績確保に努力してまいります。

(詳細は報道資料参照)

(以上)